

感 謝

安彦元玄さん（44期）が鈴木彌美^{すけよし}の『真理と信仰』を高校生が読めるようにと、フリガナをつけ、膨大な註^{ぼうだい}を作り、そして手軽に読めるように電子書籍としてくださいました。この二年近く、安彦さんからメールで送られてくるさまざまな質問に応えきれないところ多々ありましたが何とかゴールが見えてきました。安彦さんの質問に応えるために、どなたならこのことをご存じかと思ひめぐらし、たくさんの方に電話や手紙でお尋ねし、教えていただきました。そして私も多くのことを学びました。お名前をあげきれませんが心から感謝申し上げます。

実は私は2009年に独立学園退職後、『真理と信仰』（1979年初版）に載っていない彌美^{すけよし}の文章を、ぼちぼちテキスト化しておりました。主に「独立時報」、そのほか岩島^{しまとおる}公先生主筆の「永遠の日本」、日本友和会の「友和」から拾い出したものです。安彦さんはそれらをみなPDF版『真理と信仰』に入れてくださることになり、元の本にない10、11、12、13章ができました。

独立時報^{かんとうげん}の巻頭言は、主に入学式、卒業式、創立記念式やクリスマスに生徒に語ったものです。またこのことを言っている、またこれをと呆れながら入力しました。しかし、繰り返し語っていることこそ、生徒の皆さんにわかってほしかったことなのでしょう。

何度も出てくる言葉は「真理」です。「学問とは真理を知ること」「学校とは真理を教えるところ」「この学園の果たすべき使命は真理の実証」などなど。「罪の赦しの十字架の福音」も何度も出てきます。キリスト教の真髓^{しんずい}であるとも述べています。「教育の崩壊」をよく嘆いていました。「卒業証書をもらうための勉強でなく、試験のための勉強でなく、本当の勉強をしてほしい。」とも繰り返し述べています。どうぞ創立者が繰り返し述べてきたことを彼の文章から読み取ってください。

はじめ彌美^{すけよし}は色々な収益事業を試みましたが、皆失敗に終わり、最終的に人間的なことに頼るのでなく「神にのみ依り頼む」ことに徹して、一年、一年と積み重ねて独立学園が76期生を間もなく迎えるときになりました。

これを作ってくださった安彦さん、私の質問に応じてくださった沢山^{たくさん}の方々、また卒業生はじめ独立学園つながる多くの方々への感謝をもってご挨拶^{あいさつ}といたします。

2023年1月

今野 和子

【 PDF化に際して 】

『真理と信仰』に集録されている文書は、新しいものでも 1970 年代、古いものでは 1930 年代に書かれたものです。書籍としても、初版出版から 40 年以上、改訂版出版からも 35 年以上が経過しています。また、数十年前の独立学園関係者ならば誰でも知っていた人物やできごとであっても、現代の読み手にはわからなくなっているということも多々あります。そのため、本書は、特に若い世代の人たちにとって、手にとりづらい書物、さらには読んでもわからない書物となってしまう感が否めません。

そこで、「21 世紀の中高生が読みやすい本」になるよう編集し、なるべく詳細な註を加え、あわせて電子機器でも読むことができ、かつ検索も容易な PDF 文書とすることとしました。

編集と註の作成は、主に 2019 年 12 月から 2022 年 3 月にかけて行いました。註の内容については、著者・鈴木弼美の子である今野和子氏が全面的に監修してくださいました。氏は監修に際して、多くの方々と連絡をとり、極めて精緻な調査をしてくださいました。この場をお借りし、今野和子氏はじめ、調査にご協力くださった方々に心よりお礼申し上げます。

この PDF 版の内容のほとんどは原文通りですが、以下を編集の指針としました。

- ①鈴木弼美や独立学園のことを知らない若い学生が読むことを前提とし、人物やできごとや地名のみならず、難解語を解説する註を付けました。註の数も量も多くなったため、註は章末にまとめました。註の文章は、主に「広辞苑（第六版）」、「明鏡国語辞典（第二版）」、コトバンク（に集録されている辞書類）、「内村鑑三全集」（岩波書店）、「聖書事典」（新教出版社）、「鈴木弼美」（田村光三著、シャローム図書）、「基督教独立学園年表」、「基督教独立学園のあゆみ」、Wikipedia を参考にして作成しました。なお、原書にある註釈は註の文頭に（原）と表記し、PDF 化にあたり新たに追加した註と区別しました。原書にある註釈に補注した箇所には（編）と記しました。また、本書を読み進めていく上で特に重要と思われる固有名詞や、一般の辞書には掲載されていない語を中心に抜粋し、巻末に 50 音順の註を掲載しました。
- ②原本は縦組みですが、PDF 版では横組みとしました。電子機器のディスプレイで読む際には横書きのほうが読みやすいことも考慮しました。（縦書きでお読みになりたい方は原書をお読みになるか、この PDF 版をご自分で縦組みに編集してください。）また、高齢の方や視力の弱い方も読みやすいよう UD フォントを使用し、書籍版よりも文字のサイズをやや大きくしました。

- ③「21世紀生まれの漢字が得意ではない中学三年生」をイメージして、多くの漢字にふりがなをつけました。過多かたと思うところもありますが、漢字がわからないので読めないということのないようにしました。
- ④現代では差別的な表現となる（恐れのある）表現は、現代的な表現に変更し、その旨むねを註に記しました。
- ⑤明らかな誤字脱字に関しては註をつけませんでした。明らかとは言い切れないと判断した際は註をつけました。
- ⑥送り仮名は現代の辞書表記に沿うよう変更しました。また、現代では漢字表記することが一般的でない語は、ひらがなやカタカナに変更し、旧字体など現代ではあまり使われない漢字は、現代の一般的な漢字に変更しました。ただし、引用文中では原文のままとすることを基本としました。

改変例

恰も→あたかも / 当てにならない→あてにならない / 当て嵌まる→あてはまる / 或・有る・在る→ある / 居→「い」と読める箇所は「い」とし、「お」と読むほうが自然と思われる箇所には「お」とふりがなをつけた / 言い現わす→言い表す / 云う→言う、いう / 雖も→いえども / 択ぶ→選ぶ / 於→お、おい / 措いて→おいて / 欧洲→欧州 / 大なる→おおいなると読むと思われる箇所では大いなるとした / お蔭→おかげ / 阿る→おもねる / 瓦斯→ガス / 勝ち→がち / 且つ→かつ / 曾て→かつて / 叶う→適う（文脈による） / 可成り→かなり / 祈禱→祈祷 / 苦難に会う→苦難に遭う / 怪しからん→けしからん / 此処→ここ / 異なる→異なる / 此（の）→この / 此、之→これ / 之等→これら / 斯う→こう / 胡魔化す→ごまかす / 最高峯→最高峰 / 熾ん→盛ん / さへ→さえ / 然し・併し→しかし / 然も→しかも / 使命観→使命感 / 収獲→収穫 / 斥けた→退けた / 直（ぐ）→すぐ / 総て→すべて / 凡て→すべて / 折角→せっかく / 選衡→選考 / 而して→そして、しかして / 其の、其→その、それ / 叛く→背く / 夫→それ / 夫々→それぞれ / 度→たく / 唯→ただ / 但し→ただし / 喰べ→食べ / 給う→「たまう」とも「たもう」とも読めるものには「たまう」と、「たもう」としか読めないと思われるものには「たもう」とふりがなをつけた / 丁度→ちょうど / 就いて→ついて / 序に→ついでに / 握む→つかむ / 尽す→尽くす / 心算→つもり / テンカン→てんかん / と言う（「言う」が動詞でない場合）→という / 斗争→闘争 / 処→ところ / 所が→ところが / 兎に角→とにかく / 飛んでもない→とんでもない / 尚→なお / 勿れ→なかれ / 果無い→はかない / 測り知れない→計り知れない / 光り→光 / 可き→べき / 殆（ん）ど→ほとんど / 略→ほぼ / 枉げる→曲げる / 況して→まして / 先ず→ま

ず /又→また /亦→また /未だ→まだ /俟つ→待つ /迄→まで /寧ろ→むしろ /むづかしい→むずかしい /もの識り→もの知り /若し→もし /以て→もって /応しい→相応しい /矢張り→やはり /様→よう /漸く→ようやく

- ⑦引用が三行を超える際は引用箇所の前で改行し、引用の上下に一行ずつ入れ、三文字分インデントして表記しました。ただし、原本で意図的に改行されている引用については、三行未満でも改行して表記しました。
- ⑧本書中に引用されている内村鑑三の文章の中には、鈴木が改変して引用しているものもあります。そのような引用文については、内村の原文に直すことなく、本書の原文の表記をほぼそのまま記しました。
- ⑨聖書からの引用についても、聖書の原文と本書の原文の間に、若干の差異がある場合があります。その際も、本書の原文を優先しましたが、漢字表記などで聖書本文の方が適切と思われる際は、聖書本文の表記に変更しました。
- ⑩漢字一文字で表記出来る数（一～十、百、千、万など）は漢字で表記し、漢字二文字以上で表記する数や小数点や分数は、算用数字（アラビア数字）で表記しました。ただし、数学的な文脈においては、一桁の数字でも算用数字で表記しました。聖書の章や節、年月日はアラビア数字に統一しました。また、年号は西暦で統一し、原文が元号で表記されている場合は（ ）内に記しました。ただし、引用文中の数字は原文のままとし、固有名詞や固有名詞に準ずる語の中で使われている数字は、多くを漢字で表記しました。文脈や読みやすさを重視したため、例外的な表記や統一性に欠ける表記となっているところもあります。
- ⑪インチで表記されている長さには、その後の（ ）内にメートル法に換算した値を記しました。
- ⑫聖書に出てくる人名や地名は、新共同訳聖書に準拠して改めました。（例：ステパノ→ステファノ）ただし、聖書の書名は鈴木が記した原文のままとしました。（例：マタイ伝）また、文語訳聖書からの引用については註をつけ、新共同訳を付記しました。ただし、不要と思われるところについては註を省略しました。
- ⑬地名は、主としてグーグルマップに掲載されている表記を採用しました。また、辞書類や外務省のホームページも参考にしました。（例：ウエストミンスター・アベイ→ウェストミンスター大寺院）読み方のみの変更については註をつけませんが、読み方を越える変更については註に記しました。Ⅷ章にはたくさんの固有名詞が出てきますが、地名や施設名についてはほぼ註をつけていません。
- ⑭本書の書籍版は9章まででしたが、PDF版では新たに3章を追加し、全12章としました。また、鈴木^{すけよし}彌美が担当していた「合同国語」の授業に関する資料も収録しました。10章から12章までの入力作業および、合同国語に関する調査は今野和子

氏によるものです。また、氏の推薦により、小川史乃氏が新章の扉絵と次ページの絵を描いてくださいました。

内村鑑三の『余は如何にして^よ ^い ^か ^{キリスト} 基督信徒となりしか』(1955年、角川文庫)の訳者あ
とがきに、内村の弟子である山本^{たい} ^じ ^{ろう} 泰次郎と内村の息子の妻である内村美代子が、以下
のように記しています。

もとより^ひ ^り ^き 非力のわれらのなしたことゆえ、この書の中には、著者の真意をさな
がらにつたえ^え 得なかつたふしぶしもあろう。しかしともあれこの閉ざされた書
のとびらを開く役目だけは果たしたと信ずるものである。

PDF版の編集を終えての思いは、まさにこの通りです。

本書は、単なる過去の書物ではありません。本書には、いつの世にも通じる^ふ ^{へん} ^{てき} 普遍的
な意味や価値があります。閉ざされた書となりませんように。

このPDF版が、『真理と信仰』が時代を超えて読み継がれていく一助となれば幸いです。

2022年4月

編集・註作成 安彦 元玄

【改訂一覧】

2023年2月1日 PDF第1版

